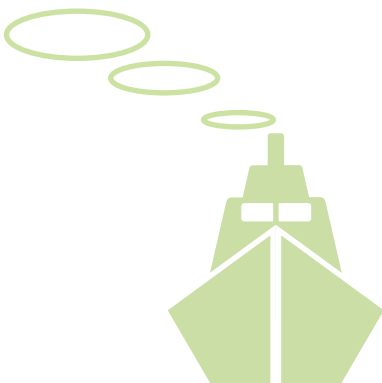




と き め き
おおいた土木未来プラン 2024

生命を紡ぐ県土づくり

【概要版】



いのち つむ 「生命」を紡ぐ県土づくり ～土木建築部の基本理念～

過去、現在、未来にわたって、それぞれの社会資本がその使命を果たし、世代を超えて——造った人、関わった人の想い（生命）がこもり、利用する人々の安全・安心（生命）が守られ、次世代の人々（新しい生命）がその価値を讃えるような「生命」を紡ぐ県土づくりを進めることを基本理念とします。

計画策定の趣旨

県行政の長期的、総合的な指針を示した最上位計画である「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」が2024年（令和6年）9月に策定されました。これから、県民と行政が目標を共有し、その実現に向けて連携しながら、10年後のさらにその先を見据えて、進んでいきます。

これまで、土木建築部では「おおいた土木未来プラン2015」に基づき、安心・活力・発展の県土づくりを着実に進めてきましたが、策定後9年が経過し、目標年度である2024年度（令和6年度）を迎えました。

新たに策定された大分県長期総合計画と社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえて、これまでの成果の継承と新たなステージへ発展させていく道標として、新たな大分県土木建築部長期計画「おおいた土木未来プラン2024」を策定しました。

計画の性格・役割

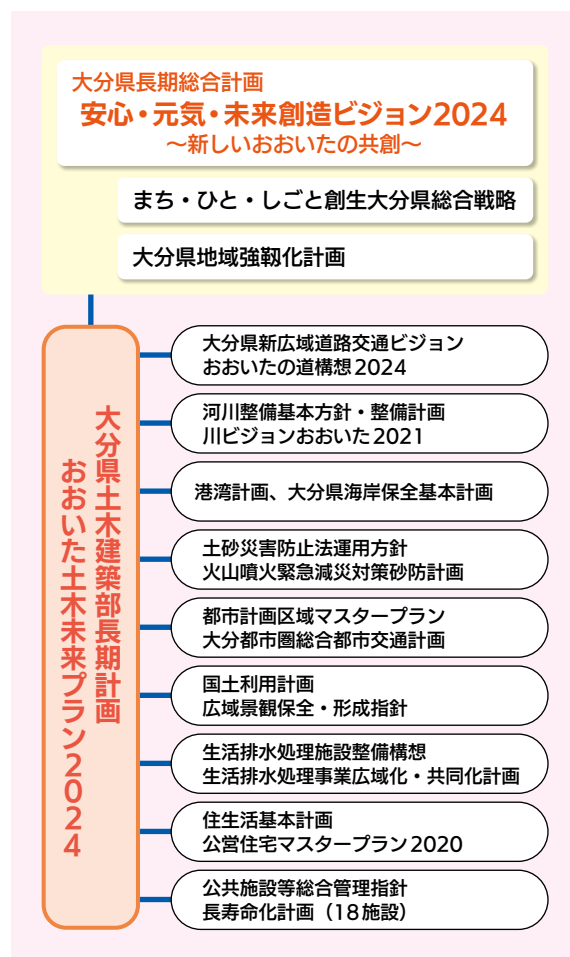
この計画は2024年（令和6年）9月に策定された「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」を補完するとともに、土木建築部が所管する各種計画を推進するに当たっての基本的な考え方を示すものです。

多くの方々が、今後の県土づくりに希望と共感が持てるよう、インフラの整備や維持管理の基本的な考え方や方向性、進め方をできるだけわかりやすく記載しています。

計画の期間

計画の期間は2025年度（令和7年度）を初年度として、大分県長期総合計画「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」の目標年度と同じ、2033年度（令和15年度）までの9年間とします。

ただし、中間年にあたる2028年度（令和10年度）に見直しを行います。



社会情勢の変化や時代の潮流

1 水災害等の頻発・激甚化や切迫する巨大地震

- ◆気候変動の影響による降雨量の増加
- ◆切迫する南海トラフ地震

2 急速に進む人口減少・少子高齢化

- ◆本県人口は2050年には約84万人まで減少する推計、減少する出生数・高齢化率の上昇
- ◆多様な人々が支え合う地域共生社会の実現

3 社会インフラの老朽化

- ◆建設後50年を経過する施設の割合が加速度的に増加
- ◆メンテナンスに携わる担い手の不足

4 地球環境問題の深刻化

- ◆生物多様性の損失や気候変動による地球温暖化
- ◆2050年カーボンニュートラルの実現

5 ライフスタイルの多様化

- ◆働き方、住まい方の多様化
- ◆インフラの多面的・複合的な利活用の拡大

6 産業を取り巻く環境の変化

- ◆半導体関連企業への投資の活発化
- ◆物価などの高騰や物流の2024年問題

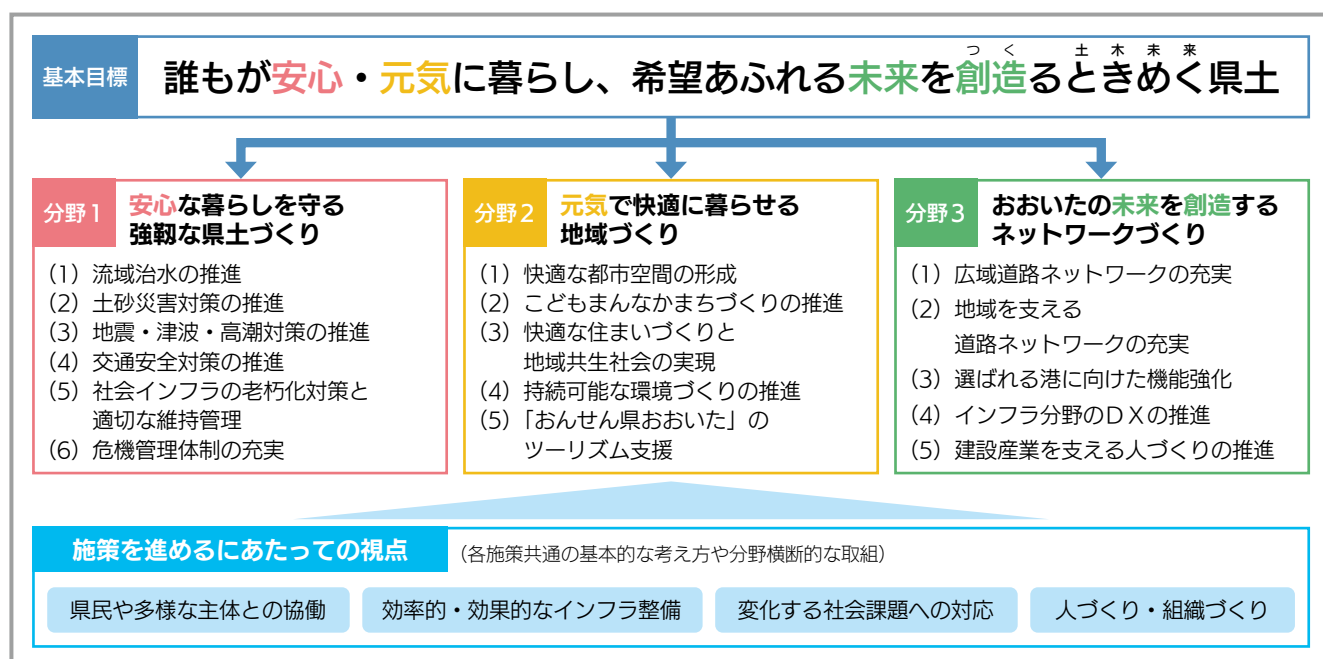
7 デジタル化の進展と導入が進む新技術

- ◆建設産業における担い手不足
- ◆インフラデータ利活用の拡大

県土づくりの目指す方向

新たな県土づくりでは、これまでの土木建築部長期計画の成果の「継承」と新たなステージへと「発展」させるため、大分県長期総合計画「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」をもとに、社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえて、新たな課題に取り組んでいきます。

その際、県民一人ひとりの声を原点に、その思いを形にして、県民と行政が目標を共有し、その実現に向けて連携しながら、10年後のさらにその先を見据えた県土づくりを進めます。



『選ばれるおおいた』『共生社会おおいた』を支える基盤

分野1

県土づくりの3つの分野

安心な暮らしを守る強靱な県土づくり

(1) 流域治水の推進

頻発・激甚化する水災害のリスクを軽減するため、河川改修やダムなどの抜本的な治水対策や迅速・的確な避難体制の構築など、流域のあらゆる関係者と協働し、ハード・ソフト一体で多層的に対策を進めます。



安岐ダム（国東市）の再生イメージ



防災情報の充実・強化（量水標設置）

(2) 土砂災害対策の推進

土砂災害から生命と財産を守るため、砂防施設の整備や流域砂防の取組を進めるとともに、土砂災害の啓発活動などによる警戒避難体制等の充実・強化を図ります。また、盛土規制法の施行を受け、盛土等の適切な管理を進めます。



砂防えん堤の整備



砂防ボランティアと連携した土砂災害防止の啓発

(3) 地震・津波・高潮対策の推進

切迫する巨大地震に備え、県経済の要である大分臨海部コンビナートの護岸強化、橋梁や建築物の耐震化やのり面対策、津波災害警戒区域の指定など、過去の災害の教訓や気候変動を踏まえ、ハードソフト一体の取組を進めます。



橋梁の耐震補強（落下に対する安全性確保）



木造住宅耐震化の啓発（耐震キャラン）

(4) 交通安全対策の推進

子どもや高齢者、障がい者などの安全な通行を確保するため、歩道の整備や自転車との分離措置、事故危険箇所の解消など、学校や警察等と連携しながら効果的な対策を進めます。



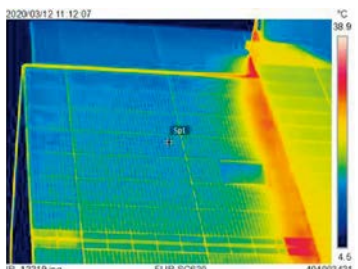
通学路における歩道整備



自転車の分離状況

(5) 社会インフラの老朽化対策と適切な維持管理

将来にわたって社会インフラの機能を確保するため、新技術等を更に活用し、戦略的なメンテナンスを推進します。また、メンテナンスを軽減するインフラ整備など、維持管理の省力化・効率化を図ります。



赤外線カメラによる建築物の調査



道路のり面の防草対策による維持管理の省力化

(6) 危機管理体制の充実

土木事務所が地域の総合防災センターとして機能するため、平常時から危機管理を意識した取組を進めるとともに、災害発生時の体制や県民への情報提供の充実・強化を進めます。



防災エキスパート技術者と連携した被災直後の現地調査



防災に関する説明会の実施状況

分野2

県土づくりの3つの分野

元気で快適に暮らせる地域づくり

(1) 快適な都市空間の形成

快適な都市空間の形成に向け、交通渋滞を緩和する道路整備やスマートICの検討などを進めるとともに、にぎわいの創出や自転車の活用など道路空間等への多様なニーズに対応した取組を進めます。また、様々な活動の拠点となるにぎわいのある公園づくりを進めます。



(都) 庄の原佐野線(下郡工区、下郡・明野工区)完成予想図



道路空間を活用した音楽イベント



飲食店を併設した公園

(2) こどもまんなかまちづくりの推進

新

こどもや子育て世帯に優しい社会づくりが求められていることから、安心して子育てできる住環境づくりや身近な遊び場などの周辺環境の整備、安全・安心な交通環境の整備を進めます。



子育て世帯向け住戸整備イメージ



水辺空間を活用したイベント

(3) 快適な住まいづくりと地域共生社会の実現

快適な住環境を確保するため、県営住宅の集約建替、間取りの変更や設備の改修を進めるとともに、高齢者や障がい者など住宅確保要配慮者への居住支援の推進やリフォーム支援などの取組を進めます。



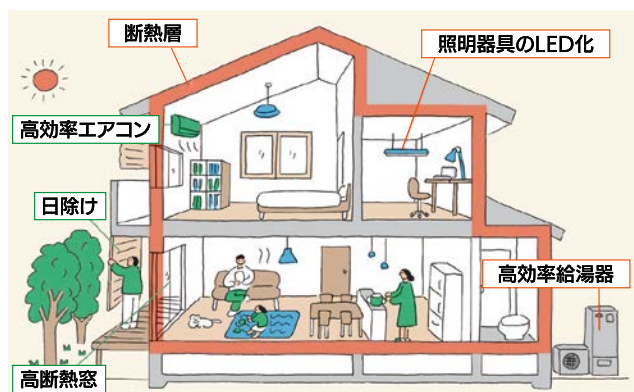
明野住宅の建替イメージ



居住支援セミナー

(4) 持続可能な環境づくりの推進

カーボンニュートラルに向けて各分野におけるCO₂排出削減に関連する取組を進めるとともに、生活排水処理の取組や河川など水辺空間での生物多様性への配慮など、豊かな自然を保全するグリーン社会の実現に向けた取組を進めます。



省エネ住宅の概念図

(5) 「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

持続可能な観光地域づくりを支えるため、主要観光地へのアクセス道路の整備や良好な景観の保全・形成、港湾の利活用によるにぎわいの創出など、持続可能な観光地域づくりを支える環境の整備を進めます。



観光地へのアクセス道路の改善



自然豊かな景観



クルーズ船の寄港

分野3

県土づくりの3つの分野

おおいたの未来を創造するネットワークづくり

(1) 広域道路ネットワークの充実

人や物の流れを活性化する広域道路ネットワークの充実に向け、東九州自動車道の4車線化、中九州横断道路や中津日田道路などの早期完成を目指し、取組を進めます。また、豊後伊予連絡道路などの将来を見据えた道路ネットワークについても必要性などの検討を進めます。



大分県の広域ネットワーク（2024年3月時点）



整備が進む中九州横断道路
（竹田IC付近）



整備が進む中津日田道路
（三光本耶馬溪道路）

(2) 地域を支える道路ネットワークの充実

地域の暮らしや産業を支えるため、幹線道路の渋滞対策や交通拠点へのアクセス強化、中山間地域などの生活道路の改善を進めます。



地域間交流を促進する道路の整備



既存の道路敷（のり面）を活用した歩行空間の確保

(3) 選ばれる港に向けた機能強化

九州の東の玄関口として「選ばれる港」を目指し、新たなニーズに対応した港湾機能の強化やフェリーターミナルなどの整備、取扱貨物量増加に向けたポートセールスなどを進めます。



別府港（石垣地区）の完成イメージ

(4) インフラ分野のDXの推進

地域の守り手である建設産業の担い手が不足していることから、ICTの活用による生産性向上やデジタル技術を活用した維持管理の効率化など、インフラDXの取組を進めます。



ICT 建設機械を活用した工事



3次元設計データ（BIM）のイメージ

(5) 建設産業を支える人づくりの推進

持続可能な建設産業の構築に向けて、就労環境の更なる改善や技術者の育成などを進めるとともに、BUILD OITAによる産学官で連携した魅力発信やBLOCKSによる女性活躍の推進など、多様な人材が活躍できる取組を進めます。



被災直後に応急対応する
建設業者



建設産業で働く女性の
ネットワークづくり

施策を進めるにあたっての視点

共通の基本的な考え方や分野横断的な取り組みとして掲げた**4つの視点**に立って各施策を進めます。

(1) 県民や多様な主体との協働

地域の多様なニーズや意見の把握に努め、県民意見を反映した県土づくりを進めるとともに、県民の要請に対して迅速な対応に努めます。また、ボランティア団体等との協働や民間ノウハウの活用など、多様な主体と連携した取組を進めます。



住民との協働による
整備手法の検討
(芹川かわまちづくりの
住民ワークショップ)



職員による迅速な対応 (河川に流出した油の処理)

(3) 変化する社会課題への対応

豊かな自然環境や周辺景観に配慮するとともに、循環型社会や脱炭素社会に対応する取組を進めます。また、全ての県民が暮らしやすい共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインへの配慮などにも取り組みます。



景観に配慮した
まちづくりと
河川改修の連携

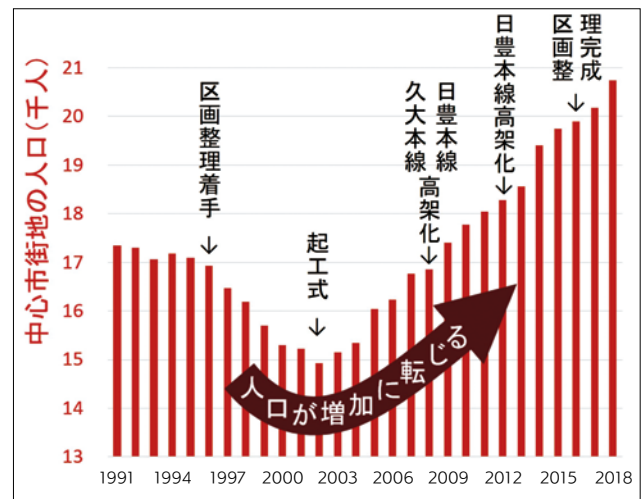


オストメイトを設置した
公共施設の多目的トイレ

(2) 効率的・効果的なインフラ整備

事業の「選択」と「集中」の徹底や各プロセスにおける透明性・公平性を確保するため、事業評価や品質確保、生産性の向上や事業執行マネジメントに取り組めます。

また、インフラ管理の更なる最適化やインフラの利活用を進め、ストック効果の最大化を目指します。



大分駅周辺総合整備事業のストック効果
(大分市中心市街地の人口の推移)

(4) 人づくり・組織づくり

インフラ整備の担い手・地域の守り手である建設産業がその役割を果たし続けられるよう、担い手の確保や育成に取り組めます。また、インフラを数多く抱える市町村への支援を進めるとともに、この計画を実行する土木建築部の職員の育成や組織づくりにも取り組めます。



建設産業の魅力発信
(BUILD OITAの
PR動画)

高校生向けの
トンネル現場見学会



計画の進捗管理

毎年、設定した各目標指標を中心に達成度を確認し、事業進捗上の問題点や課題を把握するとともに、着実な目標達成に向けて事業執行などの見直しを行っていきます。

目標指標一覧表

指 標 名	単 位	基準値	目 標 値				
			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
安心な暮らしを守る強靱な県土づくり							
治水対策により浸水被害が軽減する地区数	地区 (累計)	－	17 [13.3%]	20 [15.6%]	26 [20.3%]	36 [28.1%]	81 [63.3%]
土砂災害のリスクが軽減される家屋数	戸 (累計)	417 [6.1%]	582 [8.6%]	666 [9.8%]	712 [10.5%]	825 [12.1%]	6,803 [100%]
土砂災害警戒区域指定率	%	86.4	89.8	91.2	92.5	93.9	100
優先啓開ルート上における橋梁耐震化率 (H8年より古い基準により設計されたもの)	%	58.2	63.2	65.8	67.0	69.6	80.3
無電柱化推進計画（6～8期）における無電柱化整備率	%	14.0	37.2	41.8	51.7	65.9	93.9
耐震強化岸壁の整備数	バース (累計)	4	5	5	5	5	8
住宅耐震化率	%	84 (H30)	92 (R5)	－	－	－	95 (R10)
県管理道における法指定通学路の歩道整備率	%	82.7	83.9	85.3	86.7	87.5	89.9
令和5年度までの点検で確認された、早期対策が必要な 橋梁の対策率	%	40.3	58.1	74.3	82.2	100	－
令和5年度までの点検で確認された、早期対策が必要な トンネルの対策率	%	60.3	74.1	86.2	93.1	100	－
元気で快適に暮らせる地域づくり							
対策を講じた主要渋滞箇所数	箇所 (累計)	29	32	34	35	35	43
都市内の街路整備延長	km (累計)	509	509	511	513	515	520
一人当たり都市公園面積	m ² ／人	12.3 (R4)	12.5 (R6)	12.5 (R7)	12.6 (R8)	12.6 (R9)	12.8 (R14)
県営住宅の子育て世帯向け住戸整備戸数	戸 (累計)	30	80	110	140	170	500
通学路合同点検の要対策箇所対策率	%	－	44.8	70.6	79.3	88.7	100
県営住宅1階住戸内バリアフリー整備戸数の割合	%	78.3	80.4	80.6	80.9	81.2	84.5
市町村居住支援協議会の設立数	団体 (累計)	5	9	12	15	16	18
汚水衛生処理率	%	75.2 (R4)	80.7 (R6)	82.5 (R7)	83.7 (R8)	84.8 (R9)	90.6 (R14)
おおいたの未来を創造するネットワークづくり							
高規格道路の整備延長							
1.高速自動車国道を除く高規格道路	km (累計)	87	87	87	88	93	104
2.東九州自動車道4車線化	km (累計)	53	53	58	64	67	74
最寄りICまで概ね15分で到達できる地域の割合 [増加する面積]	%	62.8 [0]	62.9 [2.5km]	63.0 [4.9km]	63.2 [9.8km]	63.3 [12.3km]	64.8 [49.1km]
九州の東の玄関口としての拠点化主要施設まで概ね30分で 到達できる地域の割合 [増加する面積]	%	54.4 [0]	54.6 [4.9km]	54.7 [7.4km]	54.7 [7.4km]	55.3 [22.1km]	55.5 [27.0km]
高齢化集落から幹線道路へのアクセスを改善した集落数	集落 (累計)	131	182	197	211	244	306
新規バースの整備延長	m (累計)	－	240	240	240	240	695
公共ふ頭取扱貨物量	千t	43,590	42,300	43,100	43,500	44,100	45,700
業務改善に向けデジタル技術を活用した取組件数	件 (累計)	3	11	12	14	16	－
ICT建設機械等を活用し生産性が向上した工事件数の割合	%	16.4	23.4	26.1	28.8	31.4	－
県立高等学校土木建築系学科における県内建設業就職率	%	49.5	－	－	－	50.0	50.0
建設産業における女性の雇用割合	%	16.6 (R4)	－	－	－	17.1 (R9)	17.7 (R14)

※基準値は令和5年度末時点の数値

土木建築部の管理する公共施設・土木建築部の組織

土木建築部の管理する公共施設（令和5年度末現在）

道路 3,247km



新城山香線(豊後高田市)

橋梁 2,534橋



宗麟大橋(大分市)

トンネル 261本



ひびきトンネル(日田市)

河川 2,869km



津久見川(津久見市)

治水ダム 8ダム



玉来ダム(竹田市)

砂防施設 7,767施設



板地川(別府市)

港湾 18港



大分港大在地区(大分市)

公園 4公園



大分スポーツ公園(大分市)

県営住宅 389棟 8,586戸



城南住宅(大分市)

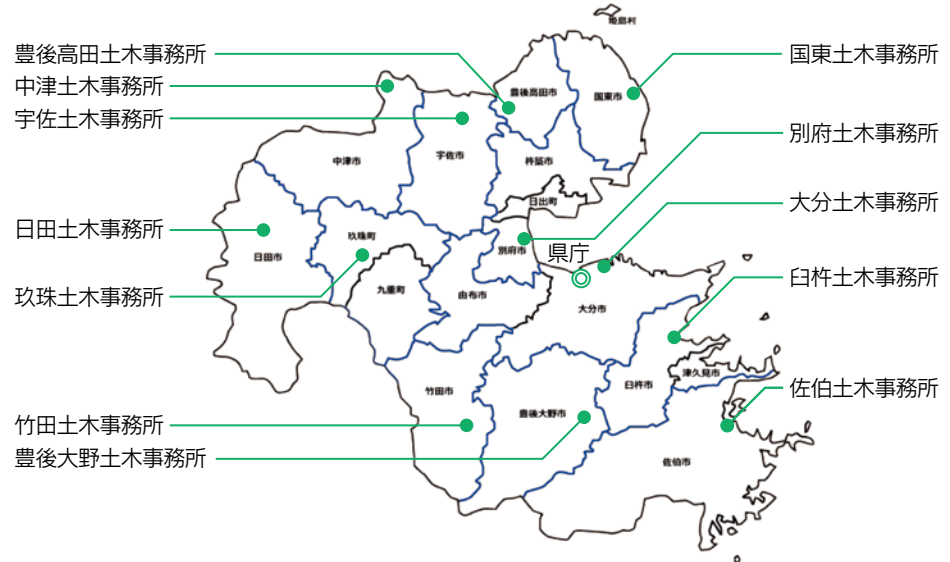
その他公共建築物 1,137棟
延べ床面積 605千㎡



知事公舎(大分市)

※ 警察、県立高校等は含まない
※ 他部局の依頼を受け、維持・修繕
工事等を行う建築物も含む

土木建築部の組織



▼ 地方機関の所在地

名 称	所管市町村	所 在 地
1 豊後高田土木事務所	豊後高田市	〒879-0621 豊後高田市是永町39 TEL(0978)22-2285 FAX(0978)22-2920
2 国東土木事務所	国東市、姫島村	〒873-0504 国東市国東町安国寺786-1 TEL(0978)72-1321 FAX(0978)72-3107
3 別府土木事務所	別府市、杵築市、日出町	〒874-0840 別府市大字鶴見字下田井14-1 TEL(0977)67-0211 FAX(0977)67-6480
4 大分土木事務所	大分市、由布市	〒870-0905 大分市向原西1-4-2 TEL(097)558-2141 FAX(097)552-5701
5 臼杵土木事務所	臼杵市、津久見市	〒875-0041 臼杵市大字臼杵字洲崎72-254 TEL(0972)63-4136 FAX(0972)63-7885
6 佐伯土木事務所	佐伯市	〒876-0813 佐伯市長島町1-2-1 TEL(0972)22-3171 FAX(0972)22-9543
7 豊後大野土木事務所	豊後大野市	〒879-7131 豊後大野市三重町市場1123 TEL(0974)22-1056 FAX(0974)22-0978
8 竹田土木事務所	竹田市	〒878-0013 竹田市大字竹田字山手1501-2 TEL(0974)63-2108 FAX(0974)63-3031
9 玖珠土木事務所	玖珠町、九重町	〒879-4413 玖珠郡玖珠町大字塚脇137-1 TEL(0973)72-1152 FAX(0973)72-3074
10 日田土木事務所	日田市	〒877-0004 日田市城町1-1-10 TEL(0973)23-2141 FAX(0973)23-3174
11 中津土木事務所	中津市	〒871-0024 中津市中央町1-5-16 TEL(0979)22-2110 FAX(0979)22-2244
12 宇佐土木事務所	宇佐市	〒879-0454 宇佐市大字法鏡寺235-1 TEL(0978)32-1300 FAX(0978)33-4956

お 問 い
合 わ せ 先

大分県 土木建築部 建設政策課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号
TEL(097)506-4559 E-mail:a18700@pref.oita.lg.jp

詳しくは、ホームページをご覧ください

おおいた土木未来プラン

検索



大分県全図

中津日田道路 L=約55km

調査区間	事業中	事業中	開通区間(R3.2)	開通区間(H24.3)	事業中(直轄権限代行)	開通区間(H27.2)	開通区間(H21.3)	開通区間(H27.3)
日田市 L=約4km	日田山国道路 L=8.8km	耶馬溪山国道路 L=8.5km	耶馬溪道路 L=5.0km	本耶馬溪耶馬溪道路 L=5.0km	三光本耶馬溪道路 L=12.8km	中津三光道路 L=3.0km	中津道路・中津港線② L=3.6km	中津港線①(臨港道路) L=3.4km

福岡県

熊本県

凡 例

	高規格道路
	国道 (管理区間)
	国道 (管理区間外)
	主要地方道
	一般県道
(4車) (2車)	開 通 区 間
	事業中区間
	計 画 路 線
(県) (国・水源機構)	ダ ム
	道 の 駅

事業中	事業中	開通区間(H31.1)	開通区間(H27.2)	開通区間(H20.3)	開通
	竹田～県境間 L=16.9km	朝地～竹田間 L=6.0km	大野～朝地間 L=6.3km	千歳大野道路 L=8.7km	大野～大分間 L=12.3km

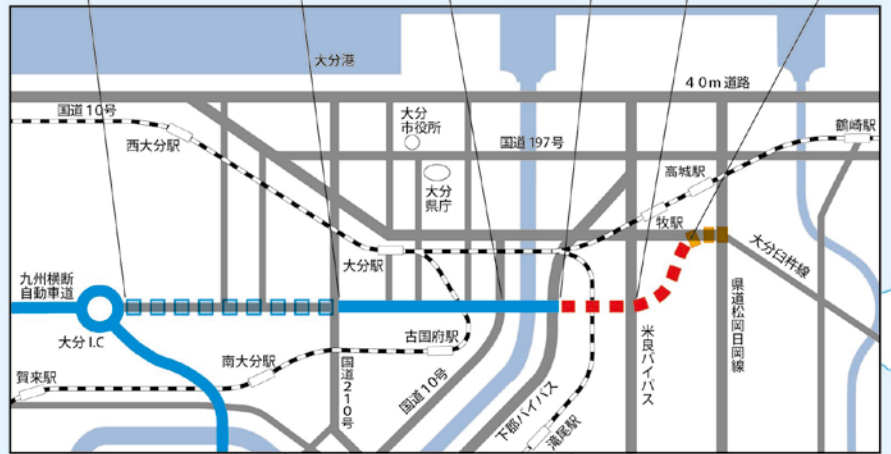
中九州横断道路 L=約120km



都市計画道路 庄の原佐野線

大分中央幹線道路

調査区間	開通区間(H20.9)	開通区間(H30.1)	事業中	事業中
L=約2.0km	L=2.2km	L=1.2km	下郡工区 L=0.9km	下郡・明野工区 L=1.6km



4車線化
(大分宮河内IC～津久見IC)
事業中
L=6.8km

4車線化
(津久見IC～佐伯IC)
事業中
L=3.3km

(佐伯～宿毛) 休止中

宮崎県

1 : 400,000

0 1 2 3 4 5 10 15 20km

